

此町通四丁半  
菊屋長兵衛

一週りか  
代三

但一日一夜  
見科同改  
花作  
以外琴之味  
線か  
物取  
示  
并  
藥種柳骨柳  
中土產物  
ゆ  
水  
用  
湯  
湯  
湯  
湯

但州湯湯中尾甚奈門

勸進能番組

孫 自笑

三才笑其笑



高妙  
入万川  
明石梅形

赤松友伸

清水  
初冬舟妙

傍回云在馬

清水

初冬舟妙

一週  
但一日  
以外  
藥材  
引用

Handwritten notes on a slip of paper, including characters like 花, 水, 山, 川, 池, 湖, 海, 江, 河, 溪, 谷, 野, 原, 田, 園, 圃, 園, 圃, 園, 圃.

三時通四時下  
菊屋長兵衛

勸進帳番組

孫 自笑  
三才笑其笑

高妙  
石交  
石交  
石交

入万川  
石交  
石交  
石交

清水  
石交



赤松友伸

傍回

石川右近



養老人  
湯谷

乙  
生田新太郎

早  
有るふん

宗備  
うし地

お友

養老人  
郎平

任右太夫

早

須賀所書元  
台 郎平太夫

納狐  
ゆらろ

早  
有るふん

養老人  
礼

早  
友伸

# 千秋萬歳樂

## 序




とうりくきまうらまわがりらりやたうり  
とらりちよ  
 けがらふち代までゆわくませわねんち林  
せんちう  
 さうさふ露と露とのよさういほそゆる  
ゆる  
 象のよさうい淨瑠璃も擬てぶらうら  
あしよせ  
 ありあふねあしどんいあがに五巻わ  
ごま  
 とうらめを又番の終ふくまうらね振  
ま  
 乃亦自にゆけなぐりの紐も承れ  
ひが  
あが  
さう  
ま


一之巻

あやんこくといふまにいふんで賣る  
然んとあわらうやうぐぬーやサアラハ  
まいつやうとうやまらてよん

延喜ころ

八文字  
自笑 

の  
年始

作者曰  
と書其笑 

勸進社系巻櫻

一之巻

目録

う妙

狂言  
入間川

第一 陽春の徳を伝へり契情れ安

舞もえいそまの其氣又たがや一  
花葉時をまらぬおまを感れ休云

第二

奇く島尻の沖渡り大を

衣の敵れ拍子と揃り末社子め

わつれ出し方のさび落て紙子屋

第三

入宵洞と老人ありあらい

あらいとあらいあらいあらい

あらいとあらいあらいあらい

一 湯春の徳を倭一契清れ姿

今頃そよよりの旅ね盛く日もしもわかれ相をい  
播磨見れば大のつむいどもさう大ね友伴と我事なり家  
いしてあまともをいしてをりけ枝さゆゆいさひい  
願ふれ渡りたつとあけい又あまを入るく橋屋あま徳が  
あまらるとやめどいおがけふさより一見はさむとねわや  
雲乃らつと中。まねつまれさうかさ。まねのねん大ね長  
あま小様とらん。むくくもるおをさうわがり。たきやははさ  
時代のまをらとら各社のあま。張さやらの長張のさうね  
さのまわくおどれたあ。ねがはね組あままりのいれ及び  
危つたりたれ風俗末さう。これおめもあづだ。つとあまら

とろり腹のちびりる金堂。極座あはる終人ぞ。ちねれ松のま風  
も風くつふむむのりせ。月のねねくくぬ。おきりいやくきてあつこ  
し。此といふちまひづろの座小島ぞ。やしげさせ。しね乃。船よ  
やまのまん。ちねれ乃す。八尺船をじつ。おう。仲るまて。一。あり  
石のころきて。おま方の西加ま。よ。ゆれ名より。極座の。ちね  
いり。これ。ね。よう。此。ま。け。お。され。も。さ。た。だ。く。は。ど。ん。ん。を。ま。い  
う。つ。ご。ち。り。け。今。日。より。お。下。の。海。く。は。き。て。つ。か。の。船。と。又。の。つ。と  
押。で。い。ご。ご。ん。す。ま。い。ま。づ。さ。も。つ。ら。と。着。指。肝。の。磁。端。つ。り。ば。く。の  
ち。ご。う。の。舟。の。ち。ね。れ。い。人。に。む。じ。て。う。ほ。い。う。と。き。ね。も。し。り  
わ。ら。つ。て。さ。り。や。り。る。舟。あ。ふ。し。ね。が。ま。ま。の。船。れ。帆。げ。ま。の。い  
や。と。ん。と。お。れ。ば。や。り。ま。づ。ご。ご。で。も。ら。か。大。酒。と。お。ろ。石。づ。と。さ。て  
ち。や。る。お。つ。そ。わ。も。ご。の。れ。ち。く。つ。む。さ。さ。ふ。ま。風。に。吹。ぬ。け。い

とろりとちびりる金堂。極座あはる終人ぞ。ちねれ松のま風  
も風くつふむむのりせ。月のねねくくぬ。おきりいやくきてあつこ  
し。此といふちまひづろの座小島ぞ。やしげさせ。しね乃。船よ  
やまのまん。ちねれ乃す。八尺船をじつ。おう。仲るまて。一。あり  
石のころきて。おま方の西加ま。よ。ゆれ名より。極座の。ちね  
いり。これ。ね。よう。此。ま。け。お。され。も。さ。た。だ。く。は。ど。ん。ん。を。ま。い  
う。つ。ご。ち。り。け。今。日。より。お。下。の。海。く。は。き。て。つ。か。の。船。と。又。の。つ。と  
押。で。い。ご。ご。ん。す。ま。い。ま。づ。さ。も。つ。ら。と。着。指。肝。の。磁。端。つ。り。ば。く。の  
ち。ご。う。の。舟。の。ち。ね。れ。い。人。に。む。じ。て。う。ほ。い。う。と。き。ね。も。し。り  
わ。ら。つ。て。さ。り。や。り。る。舟。あ。ふ。し。ね。が。ま。ま。の。船。れ。帆。げ。ま。の。い  
や。と。ん。と。お。れ。ば。や。り。ま。づ。ご。ご。で。も。ら。か。大。酒。と。お。ろ。石。づ。と。さ。て  
ち。や。る。お。つ。そ。わ。も。ご。の。れ。ち。く。つ。む。さ。さ。ふ。ま。風。に。吹。ぬ。け。い



之巻











登し。さうしていつにやらはなす。さうして。教儀に中絶するれど。  
急いぞうしく。ぼびのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

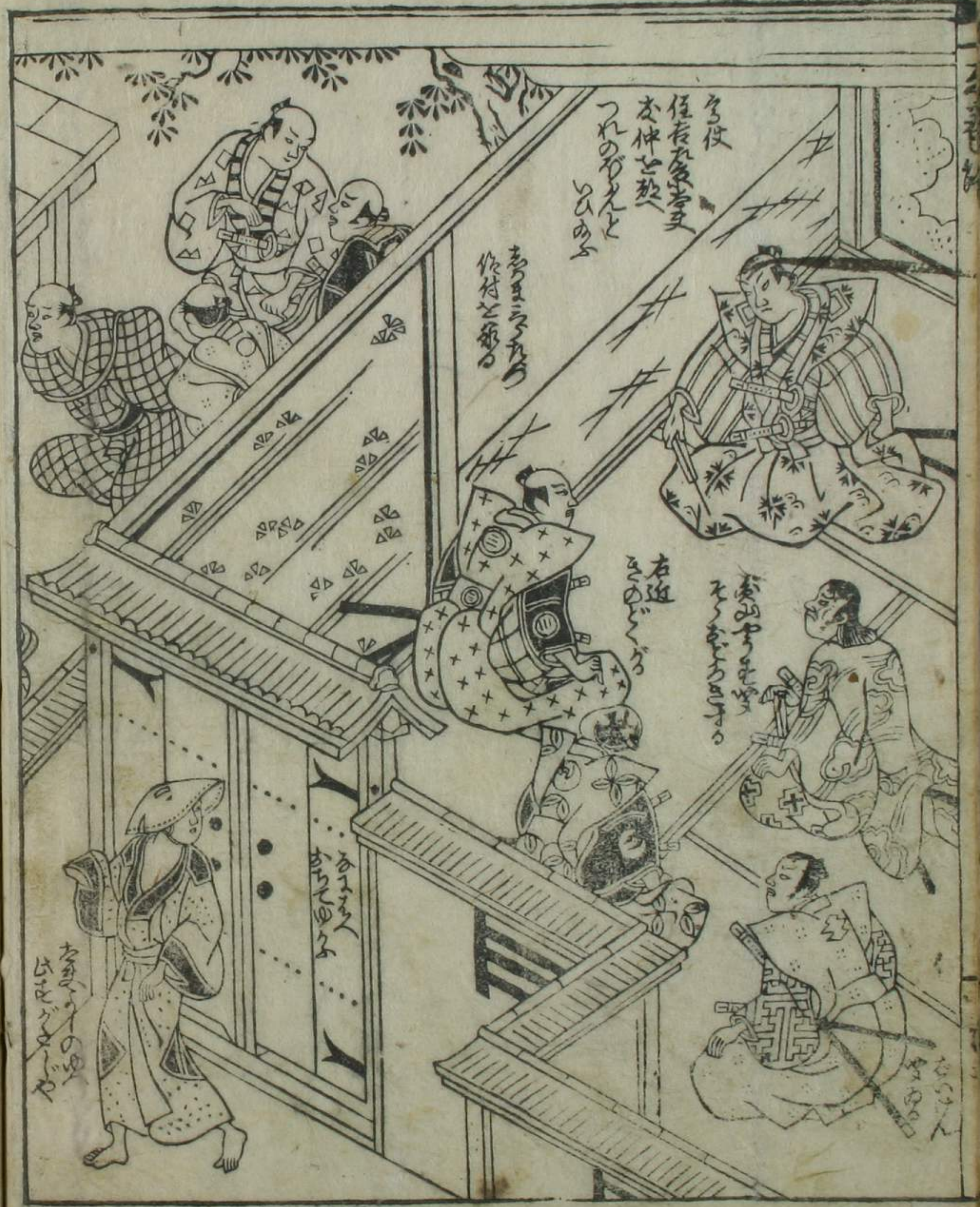
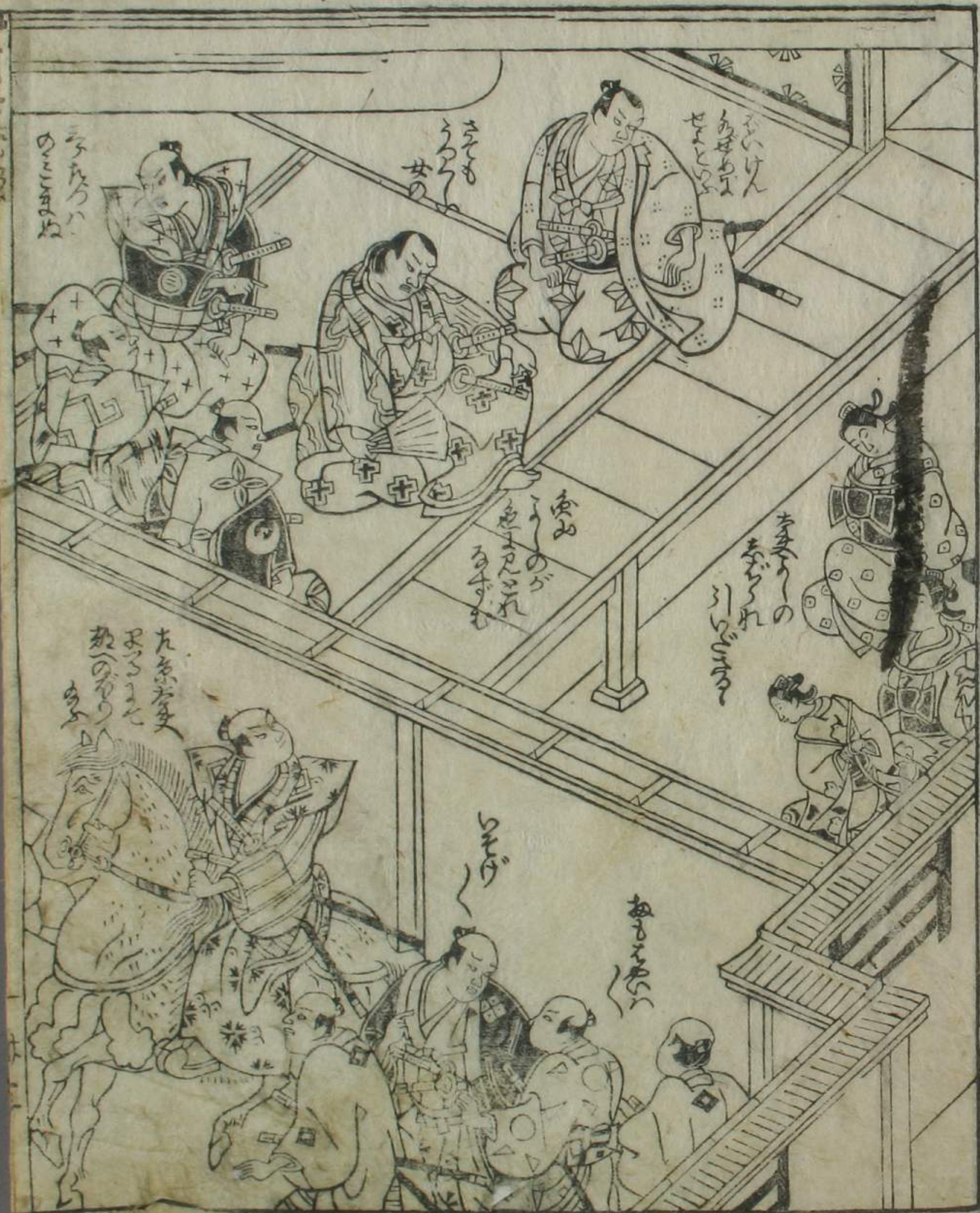
押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。

押し。おのちのちをさる。押し。おのちのちをさる。



ありて。侍者様の柄の糸敷れ巾着かきけりや。是れ門まきく内儀より  
 巾着はとれとあつて。その巾着柄が押印名書なるもの多敷く。度方れより  
 とも。まうして。さくあやち。柄あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 かし。内儀の。お意を。はらう。せん。又。柄。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 一の。まうして。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 事。れ。まうして。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 知。つて。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 こと。り。に。おせん。ご。おあつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 自。業。の。深。み。に。おあつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 あり。と。は。おあつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 志。の。まうして。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 あり。と。は。おあつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを

入り。高。大。道。に。く。や。一。團。を。丸。の。ま。れ。か。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 わ。け。あ。く。も。繩。目。は。う。く。い。ぬ。か。や。ま。も。糸。以。料。理。人。の。お。ま。ま。さ。で。一。あ。ま  
 け。り。に。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 い。き。つ。ま。う。と。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 見。て。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 だ。も。あ。つて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 よ。ま。あ。つて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 む。の。を。あ。つて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 け。り。に。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 け。り。に。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 け。り。に。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを  
 け。り。に。お。あつて。侍者様の。柄。を見。さす。かけ。度方れ。あつて。いぬか。おあつて。度方れを







おせびつにもしいりたれ  
かといつあやりのをを河  
河を身うす。お名梅形又ま  
かよけおせをけらうり  
いんもくをめらうり  
屋敷にけり考べし。ほ  
きりよてんお仲をさ  
めらうりめとめし  
人用わしびそと入  
がる海らふ氣がつ  
くらあやどね  
りこてあふり

よの河の下か  
さうりしいて  
けくそのの  
又あふり  
まらうり  
おみをと  
まはつ  
ありと  
らと  
そ  
代  
代



